

港区立御成門小学校
令和6年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常に必要な国語(漢字・語彙)について正確に理解し、適切に使う能力を高める。 ・人との関わりの中で、自他の思考を適切に表現したり理解したりして新たな考えを想像する力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を書く設問での正答率は7割以下であり、既習漢字を正しく文章の中で使うことができない。 ・目的や意図に応じて、話題を決めて話し合ったり、適切に表現したりする力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字や教材文の中の語句を用いた言葉集めや、短文を書くことを短時間でくり返し練習する。 ・図書室の活用、辞書の活用、教科書巻末「言葉の宝箱」の活用を通して、児童が言葉に触れる機会を増やす。 ・自分の考えをもつ時間や、機会を十分に設け、スクールタクト等のICTを使って自分と相手の考えを比較したり検討したりできるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を育てる。 ・社会の課題解決に向けて社会へのかかわり方を選択判断したり、適切に表現したりする力を高める。 ・よりよい社会を考え問題解決しようとする態度、地域社会、国際社会の一員としての自覚を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が何を示しているのが把握できなかったり、その要点を見落としたりすることがある。 ・社会的な事象に対し、自分事として捉えて疑問をもったり意欲的に調べたりする力が乏しい。 ・資料と社会的な事象や地域の生活を結び付けて考えたり、課題を見いだしたりすることに至らない児童が多い。 ・学習をもとに考えたことを表現する場面では、意欲的ではある。しかし、文章で記述したり、説明したり、話し合ったりすることの経験が足りていない。 ・47都道府県の名称と位置の理解について習熟に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業内において、教科書等の資料を取り扱う時間を確保し、見方や考え方を養う。 ・都道府県の位置や名称が分かる掲示物を活用し、児童の目に留まりやすくする。授業内でも適宜掲示物を活用しながら、正しい位置と名称を振り返る機会を継続して設ける。 ・ペアやグループでの話し合いを取り入れ、友達の考えを聞きながら自分の考えをもつことができるようにする。 ・授業の単元計画において、社会的な事象と自分の生活を関連づけて考える場面を意識的に作り、自分の考えをもち表現することを積み重ねる。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解、日常の事象を数理的に処理する技能を育てる。 ・日常の事象を数理的に捉えて見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約5割の児童が、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができない。 ・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力が乏しい。 ・折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを求めることだけに価値をもたせるのではなく、立式の根拠を大切にさせる。そのために、図や数直線を用いて立式の根拠を説明する活動を重視する。 ・問題を解決する過程で、見通しをもち筋道を立てて考えて説明したり、既習事項を活用する手順を的確に説明したりする学習を重視する。その中で、友達の説明のよさを見つけて自身の説明を振り返ることにつなげさせる。また、根拠を明らかにし筋道を立てて説明している表現を全体で共有し、価値付ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	理科の見方・考え方を働かせた問題解決の力を育てる。	問題解決のプロセスの中で以下の点に課題がある。 【予想】 事象や経験を予想の根拠として結び付けて考えることが難しい。 【計画】 仮説を検証するための実験計画を自力で立てることに苦労している。 【考察】 実験の結果を公平・客観的に評価できず、仮説に正対した考察をすることに課題がある。	【予想】 児童同士の考えを積極的に交流させ、どのように根拠をもてばよいのか皆で共有する。そのために、付箋紙や名前マグネットを用いて自分や友達のことを視覚化させる。 【計画】 実験や観察の計画を立てるにあたり、ノートにまとめることを指導する。(必要な実験器具、手順、そろえる条件、見通し) 【考察】 実験の後、考察を記入する前に、実験の結果(数値等の事実)をどのように評価するのか、クラス内で整理・検討を行う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	・自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、関わりに気づき、生活上必要な習慣や技能を育てる。 ・身近な人々や社会、自然を自分との関わりで捉え、体験活動等を通して、自分自身や自分の生活について考えたり、表現したりする力を育てる。	・生活科の活動は、遊び的要素が多く含まれる学習のため、子供の学びにどう繋げるのか明確にする必要がある。 ・自分の気づきを交流し、新たな気づきを生み出したり、次の活動に繋げたりする力が乏しい。 ・活動を通して、考えたことを表現する際、どのようなことを書けばいいのか困る児童がいる。 ・自然事象に接する機会が少ない。	・導入や活動の場を工夫し、児童の思いや願いに沿った学習計画を立てる。 ・体験活動を充実させるとともに、活動から得た気づきをもとに考える時間を設け、学習活動が体験のみで終わらないようにする。 ・学習対象と繰り返し関わりをもたせ、活動に対して振り返りを確実に言い、次の学びに繋げていく。また、子供の活動を丁寧に観察し、行動観察やつぶやき、対話から子供の気づきを見取り、授業展開に生かす。 ・観察する視点を焦点化し、変化に気づきやすくする。 ・中庭のビオトープや、芝公園を活用し、自然に触れ合う機会を作る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽と豊かにかかわることができる力を育てる。 ・他者と協働しながら表現したり、音楽のよさを見出したりする力を育てる。	・歌唱に関しては個人差があり、歌うことを恥ずかしがったり意欲をもてなかったりする様子も見られる。 ・音楽のよさを見いだすことに関しては、個人差がある。	・日頃から歌唱に関心をもてるように、音楽朝会や放送などで意欲付けをする。 ・歌うことに自信をもてるように、発声練習などを工夫して行う。 ・感じたことを言語化することが難しいことも考えられるので、友達と意見を交流したり共有したりする場を多く設定するようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	・材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり、表現したりすることができる。 ・創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。	・用具の正しい使い方、扱い方に個人差がある。 ・柔軟に発想したり、構想をじっくり練ったりする力が弱い。	・用具の使い方、扱い方の基礎的なことは、資料や実演などで分かりやすく繰り返し指導する。 ・専科が低学年にも指導方法を提供していく。 ・個人によっていろいろな展開でき、発想が広がる魅力的な題材を考え、資料や言葉がけを工夫する。ワークシートも改善していく。 ・造形遊びなど、協働しながら楽しく見方や感じ方を深められるようにする。

家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な知識・技能を育てる。 ・生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや思いをもって授業に取り組めていないので、実感を伴った理解や技能の習得にいたっていない。 ・観察や実習を通して獲得した知識や技術が授業の中で終結し、実生活にいかせていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型の授業を通して、より自分のこととして捉えられるようにする。また実践的・体験的な学習を行い、その中で学習内容の定着を図るとともに、日常生活に生かせるようにする。 ・観察や実習の結果を整理する際のレポート作成などを充実させることを通して、実践を評価したり、改善したりする力を身に付けさせる。

体育	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性を理解するとともに自己の学習を調整する力を育てていく。 ・集団的活動を通して児童のコミュニケーション能力を育てていく。 ・健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストに向けた体育授業の年間指導計画の作成。 ・児童の技能や生活習慣など到達度を把握できるような学習カードやICTを活用し、技能の習熟を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの能力や発達段階に応じた場や簡易化されたルールを確保し、運動の特性を味わえるようにする。 ・ICTを活用し活動を振り返って、自己の課題に向けて調整したり、友達と交流したりするツールを見童が使えるようにする。

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業までに、アルファベットの大文字小文字が書けて読める。 ・卒業までに、音声で十分に慣れ親しんだ単語や文章などを活用してやり取りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、自分が表現したいことを文章にする際、どのようなことを書けばいいのか困る児童がいる。 ・友達とのやりとりの中で、声の抑揚やジェスチャーを付けながら、よりよい表現活動にしようとする意欲が乏しい。 ・音声で慣れ親しんだ単語や文章を4線に正しく書くことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールを設定し、NTと協力し、有効な学習活動を計画する。 ・低学年では、音声と文字に親しんだり識別したりする活動を多く取り入れる。 ・高学年は、4線を使って正しく書けるように、ワークシートや指導を工夫する。 ・メトロラーニングを活用し、音声に慣れ親しませるとともに、繰り返し発音練習を行い、言い慣れさせる指導を行う。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値について理解しようとする。 ・物事を多面的・多角的に考えようとする。 ・道徳的価値を基に、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容を見童が自分事として捉えられるようにする必要がある。 ・自分とは異なる考えを受け入れるのが難しい場面がある。 ・学習したことを生活の中で実践できるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技など、疑似体験的な表現活動を取り入れ、道徳的価値の意義などについて考えを深められるようにする。 ・自分の考えをもち、それをペアやグループ、全体で交流したり話し合ったりする活動を積極的に取り入れる中で、多様な感じ方や考え方に触れさせる。 ・その後の自分や友達の考えについて振り返る時間を確保する。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の一員としてのより良い生活や人間関係を主体的に築こうとする。 ・自己の生き方についての考えを深め、自己を活かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や時間を守る等の日常生活の中で必要なマナーやルールを主体的に守り、実行しようとする意識を身に付けていく必要がある。 ・縦のつながりを意識し、集団の一員として志をもって自己を活かそうとする気持ちを育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動やふれあい月間を活用し、マナーやルールについての意識や態度を向上させる。 ・縦割り班活動や全校遠足、様々な行事を通して、上級生の姿を見せながらどのような自分になりたいか考えさせると共に、キャリアパスポートを活用し、アウトプットさせることでその気持ちをより強めることができるようにする。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活している地域に関わる探求的な学習の過程で、自ら問いを見つけ取り組むことができる。 ・調査し得た情報を整理・分析する力を身に付けると共に、考えたことの根拠を明らかにしてまとめ、表現する力を身に付けることができる。 ・探求的な学習に主体的に取り組む事で、学んだことを生活に生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に関して、自分ならどうするか、どのように探究していくか学習をプランニングする力を育てる必要がある。 ・情報を読み取り、分析したり判断したりする力を高める必要がある。 ・自分で考えたことを分かりやすくアウトプットする技術の習得が必要である。 ・課題に関して自分事として捉え、どう関わっていくのか考えられるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や既習事項をもとに、児童が関心や疑問をもったことを課題にできるようにする。 ・学習内容や目的に合わせて、情報や考えを整理したり、情報を分析して課題を解決し新たな課題を見いだしたりする。 ・学習の見通しを立て、自らの学びを計画し、調整する。 ・自分の住む地域や伝統文化について学ぶ学習を積極的に取り入れ、地域の特徴や良さに気付き、継承していくことの大切さに気付かせるようにする。 ・キャリア教育とも関連させ、学んだことを今後どのように自分の生活に生かしていくのか、考える時間を設ける。